

# シュローダーYENターゲット(1年決算型)

追加型投信／内外／資産複合

## 交付運用報告書

第2期(決算日2019年4月15日)

作成対象期間(2018年4月17日～2019年4月15日)

| 第2期末(2019年4月15日) |          |
|------------------|----------|
| 基準価額             | 10,130円  |
| 純資産総額            | 1,702百万円 |
| 第2期              |          |
| 騰落率              | △ 0.1%   |
| 分配金(税込み)合計       | 0円       |

(注) 騰落率は期末の基準価額に分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社のホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>  
右記の委託会社のホームページの「投資信託一覧」から当ファンドを選択することにより、運用報告書(全体版)を閲覧およびダウンロードすることができます。

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「シュローダーYENターゲット(1年決算型)」は、このたび第2期の決算を行いました。

当ファンドは、主としてマザーファンド受益証券への投資を通じて、世界各国(日本を含む先進国および新興国)の株式、債券、通貨、代替資産などへ直接、または当該資産を投資対象とする投資信託証券等を通じて様々な資産に分散投資し、市場環境に合わせて機動的に資産配分の調整を行うことを原則として、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。当期におきましても、当該運用方針に沿った運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

### シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-3  
丸の内トラストタワー本館21階

### 当運用報告書に関するお問い合わせ先

- ・投資信託営業部 電話番号 03-5293-1323
- ・受付時間 9:00～17:00(土・日・祝日は除く)
- ・インターネットホームページ <http://www.schroders.co.jp/>

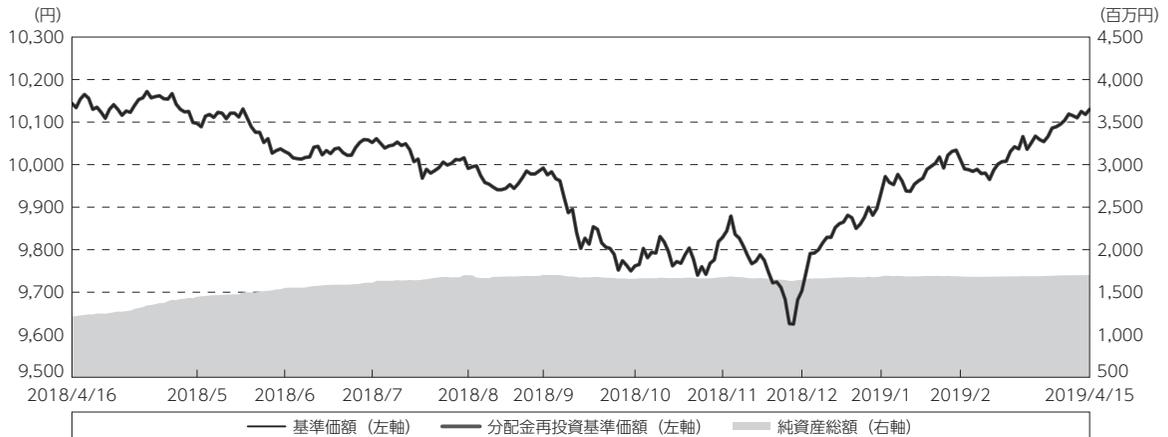
# Schroders

シュローダー・インベストメント・マネジメント

## 運用経過

### 期中の基準価額等の推移

(2018年4月17日～2019年4月15日)



期 首：10,144円

期 末：10,130円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：△ 0.1% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額と異なる場合があります。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、期首 (2018年4月16日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 当ファンドの値動きを表す適切な指標が存在しないため、ベンチマーク等は設けておりません。

### ○基準価額の主な変動要因

期首10,144円でスタートした基準価額は、10,130円 (分配後) で期末を迎え、期首比0.1% (分配金再投資ベース) の下落となりました。

当期、ファンドはおおむね横ばいの推移となりました。2018年10月より金利が低下基調 (価格は上昇) に転じ、2019年3月には米国国債を中心に国債利回りが一段と低下したことを背景に、米国国債を中心として国債の組入れがパフォーマンスの主なプラス要因となりました。株式市場は2018年10月から12月にかけて大幅に調整したことを背景にマイナス要因となりました。

1万口当たりの費用明細

（2018年4月17日～2019年4月15日）

| 項 目   | 当 期                                     |   | 項 目 の 概 要  |
|---|---|---|--|
|   | 金 額                                     | 比 率   |  |
| (a) 信 託 報 酬<br>( 投 信 会 社 )<br>( 販 売 会 社 )<br>( 受 託 会 社 )                | 111<br>( 54 )<br>( 54 )<br>( 3 )        | 1.109<br>(0.539)<br>(0.539)<br>(0.032)            | (a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率<br><br>・ファンドの運用判断、受託会社への指図<br>・基準価額の算出ならびに公表<br>・運用報告書等法定書面の作成、および受益者への情報提供資料の作成等<br>・運用報告書等各種書類の交付<br>・口座内でのファンドの管理、および受益者への情報提供等<br>・ファンドの財産保管・管理<br>・委託会社からの指図の実行等   |
| (b) 売 買 委 託 手 数 料<br>( 投 資 信 託 証 券 )<br>( 先 物 ・ オ プ シ ョ ン )             | 2<br>( 1 )<br>( 2 )                     | 0.023<br>(0.008)<br>(0.015)                       | (b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数<br>売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料  |
| (c) 有 価 証 券 取 引 税<br>( 投 資 信 託 証 券 )                                    | 0<br>( 0 )                              | 0.001<br>(0.001)                                  | (c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数<br>有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金   |
| (d) そ の 他 費 用<br>( 保 管 費 用 )<br>( 監 査 費 用 )<br>( 印 刷 費 用 )<br>( そ の 他 ) | 20<br>( 4 )<br>( 5 )<br>( 10 )<br>( 2 ) | 0.197<br>(0.036)<br>(0.047)<br>(0.096)<br>(0.018) | (d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数<br><br>・保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用<br>・監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用<br><br>・印刷費用は、印刷会社等に支払う運用報告書作成等に係る費用<br><br>・その他は、グローバルな取引主体識別子（LEI:Legal Entity Identifier）登録費用、金銭信託手数料、信託事務の処理に要するその他の諸経費等 |
| 合 計   | 133                                     | 1.330   |  |
| 期中の平均基準価額は、9,965円です。  |   |   |  |

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（親投資信託を除く）が支払った費用を含みません。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2014年4月15日～2019年4月15日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額と異なる場合があります。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 当ファンドの設定日は2017年4月5日です。

|                   | 2017年4月5日<br>設定日 | 2018年4月16日<br>決算日 | 2019年4月15日<br>決算日 |
|-------------------|------------------|-------------------|-------------------|
| 基準価額 (円)          | 10,000           | 10,144            | 10,130            |
| 期間分配金合計(税込み) (円)  | —                | 0                 | 0                 |
| 分配金再投資基準価額騰落率 (%) | —                | 1.4               | △ 0.1             |
| 純資産総額 (百万円)       | 557              | 1,217             | 1,702             |

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。  
ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2018年4月16日の騰落率は設定当初との比較です。
- (注) 当ファンドの値動きを表す適切な指標が存在しないため、ベンチマーク等は設けておりません。

**投資環境**

（2018年4月17日～2019年4月15日）

当期前半は、米中貿易摩擦問題や主要国の金融政策動向が市場の焦点となる中、株式市場は不安定な展開となりました。堅調な景気や企業業績に下支えされた米国株式が好調に推移した一方、新興国株式は米中貿易摩擦問題や米ドル高の進行が重しとなり、大幅な下落となりました。国債市場は、米連邦準備制度理事会（F R B）による利上げや良好な米国の経済環境を受け、米国10年国債利回りは上昇しました（価格は下落）。欧州では、欧州中央銀行（E C B）による金融正常化の進展が見込まれた一方、イタリアの情勢やトルコの通貨危機などの地政学的リスクの高まりを背景にドイツ国債利回りが大幅に低下する局面も見られました。

2018年10月に入ってから、それまでの米国金利の上昇を受けた米国株式に対する利益確定売りが膨らんだことで、投資家のリスク回避の動きが急速に広がり、株式等のリスク性資産を中心に調整しました。12月、F R Bは利上げに踏み切りましたが、今後の経済見通しを下方修正したことなどが背景となり、投資家のリスク回避姿勢が強まったことから株式市場は米国株式を中心に大きく下落しました。これを受けて米国国債利回りは低下、欧州でもドイツ国債利回りは低下しました。社債市場については、国債利回りは低下したものの、スプレッド（利回り格差）拡大の影響が大きかったことから、総じて軟調に推移しました。2019年からは、米中貿易摩擦の懸念が後退したほか、F R Bをはじめとする主要国の中央銀行がハト派姿勢を強めたことから株式市場は総じて堅調に推移しました。これを背景に米国国債利回りは大幅に低下し、債券市場は上昇基調を辿りました。

**当ファンドのポートフォリオ**

（2018年4月17日～2019年4月15日）

当ファンドが主要投資対象としているシュロージャーYENターゲット・マザーファンドの運用について

当期、機動的な資産配分の変更を行ったほか、国・地域やセクターなどに着目した選別的な投資や、各種ロングショート戦略の組入れや解消を実施しました。株式では、2018年6月までは景況感の悪化から、景気敏感性のある日本株式や欧州株式を中心に、株式全体の組入比率を引き下げました。その後、市場が落ち着きを取り戻す中、世界の経済成長にも安定感が見られたため、米国株式を中心に組入比率を引き上げました。債券では、米国や欧州での金利上昇を見込み、金利感応度を低位で維持しました。しかしながら、10月から12月にかけて市場のリスク回避が進む中、ファンドのリスク削減を企図して株式の組入比率の引き下げと、国債および金の組入比率の引き上げを行い、下落相場に対する耐性を高めました。2019年以降は、主要国の中央銀行のハト派姿勢の強まりを背景に株式市場が上昇基調となる中、穏やかなリスク資産の組入比率の引き上げを行いました。具体的には、株式の組入比率を引き上げたほか、新興国債券の組入比率の引き上げおよび、ハイイールド社債を新規で組み入れました。また、3月後半にかけて金利低下が進んだことから、これまで高位としてきた国債を利益確定の目的で一部売却したほか、金についても利益確定を企図して一部売却するなど、機動的なファンド運営を行いました。

**当ファンドのベンチマークとの差異**

（2018年4月17日～2019年4月15日）

当ファンドの値動きを表す適切な指標が存在しないため、ベンチマーク等は設けておりません。

## 分配金

（2018年4月17日～2019年4月15日）

収益分配金につきましては、基準価額水準、市場動向、信託財産の規模等を考慮し、当期の収益分配は見送らせていただきました。なお、留保益については、特に制限を設けず、当社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

### ○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

| 項 目       | 第 2 期                     |
|-----------|---------------------------|
|           | 2018年4月17日～<br>2019年4月15日 |
| 当期分配金     | —                         |
| （対基準価額比率） | —%                        |
| 当期の収益     | —                         |
| 当期の収益以外   | —                         |
| 翌期繰越分配対象額 | 129                       |

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

株式については、2019年の年初より上昇局面が持続しており、バリュエーション（価値評価）は適切な水準にあると考えることから中立の見通しを維持しています。業績モメンタム（勢い）の改善が見られる一方で、特に米国の労働市場がひっ迫している状況を踏まえると、賃金上昇が企業業績を圧迫する要因となる可能性については今後の動向を注視する必要があると考えます。新興国株式については、引き続きバリュエーションが相対的に魅力的であることに加え、中国当局による景気刺激策の強化などモメンタムの観点からも下支え要因が存在すると考えることからやや強気の見通しを維持しています。

国債については、バリュエーションの観点ではFRBのハト派姿勢の強まりを背景に割高な水準にあると判断しています。ただし、経済指標の弱含みおよびインフレが抑制されていることが国債市場の支援材料となり、景気減速時には有効なヘッジ手段となると考えています。このような投資環境下、分散投資が有効であると判断することから、引き続き物価連動債や米国以外の国債の保有を維持します。社債については、2019年の年初より幅広い社債市場の上昇が見られ、バリュエーションの魅力度は低下しているものの、中央銀行によるハト派姿勢の強まりは企業にとって追い風であり、選別的な投資機会が生じると考えています。

コモディティについては、見通しを中立としていますが、米国以外の国々の景気減速がドル高をもたらす可能性や投資家心理の改善が金にとって重しになると考えます。

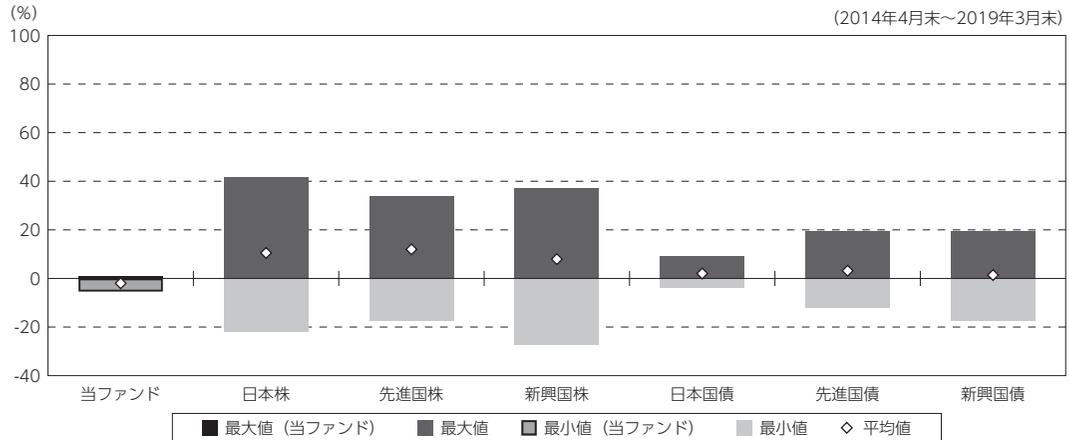
世界景気減速懸念、米中貿易摩擦、英国の欧州連合（EU）離脱問題などにより、変動性の高い市場環境が継続すると見込まれるため、市場動向を注視する必要があると考えています。ファンドでは、長期的な視点から収益獲得が見込める機会を追求すると同時に、機動的な資産配分によって下落リスクの抑制に注力していく方針です。

## 当ファンドの概要

|        |  |   |
|--------|--|---|
| 商品分類   | 追加型投信／内外／資産複合  |   |
| 信託期間   | 無期限（2017年4月5日設定）   |   |
| 運用方針   | 信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。  |   |
| 主要投資対象 | 当ファンド  | シュローダーYENターゲット・マザーファンドの受益証券とします。  |
|        | シュローダーYENターゲット・マザーファンド   | 世界各国（日本を含む先進国および新興国）の株式、債券、通貨、代替資産*など、様々な資産クラスを投資対象とします。<br>*代替資産とは、商品、不動産、インフラなどの資産を指します。なお、これらの資産への直接投資は行いません。また、ヘッジファンドに投資することもあります。<br>※組入外貨建資産については、為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を機動的に図ることを基本とし、外国為替予約取引、為替先渡取引、ノンデリバラブル・フォワード（NDF）等を利用します。 |
| 運用方法   | 主としてマザーファンド受益証券への投資を通じて、世界各国（日本を含む先進国および新興国）の株式、債券、通貨、代替資産など、様々な資産クラスに投資を行います。実質組入外貨建資産については、為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を機動的に図ることを基本とします。実質組入外貨建資産にかかる為替ヘッジには、外国為替予約取引、為替先渡取引、ノンデリバラブル・フォワード（NDF）等を利用します。 |   |
| 分配方針   | 年1回の毎決算時（毎年4月15日。ただし当該日が休業日の場合は翌営業日）に原則として経費控除後の繰越分を含めた利子・配当収入と売買益（評価損を含みます。）等から、基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。なお、分配を行わない場合があります。   |   |

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

|     | 当ファンド | 日本株    | 先進国株   | 新興国株   | 日本国債  | 先進国債   | 新興国債   |
|-----|-------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|
| 最大値 | 1.0   | 41.9   | 34.1   | 37.2   | 9.3   | 19.3   | 19.3   |
| 最小値 | △ 5.4 | △ 22.0 | △ 17.5 | △ 27.4 | △ 4.0 | △ 12.3 | △ 17.4 |
| 平均値 | △ 2.0 | 10.5   | 12.0   | 7.9    | 2.0   | 3.2    | 1.4    |

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2014年4月から2019年3月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは2018年4月以降の年間騰落率を用いております。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額と異なる場合があります。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA - BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースィファイド(円ベース)

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## 当ファンドのデータ

### 組入資産の内容

（2019年4月15日現在）

#### ○組入上位ファンド

| 銘柄名                     | 第2期末   |
|-------------------------|--------|
| シュロージャーYENターゲット・マザーファンド | 100.6% |
| 組入銘柄数                   | 1銘柄    |

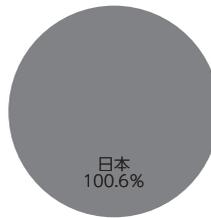
（注）組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注）組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

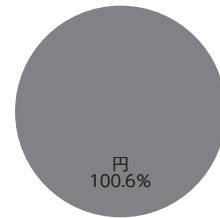
#### ○資産別配分



#### ○国別配分



#### ○通貨別配分



（注）比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

（注）国別配分につきましては発行国（地域）もしくは投資国（地域）を表示しております。

### 純資産等

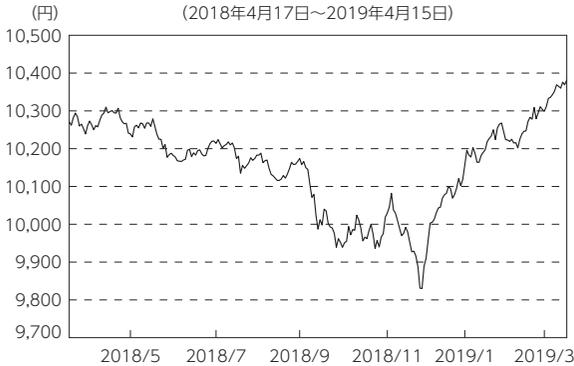
| 項 目         | 第2期末           |
|-------------|----------------|
|             | 2019年4月15日     |
| 純 資 産 総 額   | 1,702,146,224円 |
| 受 益 権 総 口 数 | 1,680,321,099口 |
| 1万口当たり基準価額  | 10,130円        |

\* 期中における追加設定元本額は602,089,773円、同解約元本額は122,476,097円です。

組入上位ファンドの概要

シュローダーYENターゲット・マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2018年4月17日～2019年4月15日)

| 項目                                     | 当期                     |  |
|--|------------------------|--|
|  | 金額                     | 比率                                     |
|  | 円                      | %                                      |
| (a) 売買委託手数料<br>(投資信託証券)<br>(先物・オプション)  | 2<br>(1)<br>(2)        | 0.023<br>(0.008)<br>(0.015)            |
| (b) 有価証券取引税<br>(投資信託証券)                | 0<br>(0)               | 0.001<br>(0.001)                       |
| (c) その他費用<br>(保管費用)<br>(監査費用)<br>(その他) | 9<br>(4)<br>(4)<br>(2) | 0.090<br>(0.036)<br>(0.036)<br>(0.018) |
| 合計                                     | 11                     | 0.114                                  |

期中の平均基準価額は、10,152円です。

- (注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。  
 (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。  
 (注) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券(投資証券等を含む)が支払った費用を含みません。  
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【現物資産上位10銘柄】

(2019年4月15日現在)

| 銘柄名  | 業種/種別等   | 通貨        | 国(地域)   | 比率   |
|--|----------|-----------|---------|------|
| 1 VANGUARD TOT WORLD STK ETF               | 投資信託受益証券 | 米ドル       | アメリカ    | 6.7% |
| 2 US INFL 0.875% 15/01/29                  | 国債証券     | 米ドル       | アメリカ    | 6.2  |
| 3 US 3.625% 15/02/20                       | 国債証券     | 米ドル       | アメリカ    | 5.1  |
| 4 ISHARES MSCI AC FAR EAST X-JP ETF        | 投資信託受益証券 | 米ドル       | アメリカ    | 4.2  |
| 5 ABF PAN ASIA BOND INDEX FUND ETF         | 投資信託受益証券 | 米ドル       | 香港      | 3.5  |
| 6 TSY INFL IX 0.125% 2026                  | 国債証券     | 米ドル       | アメリカ    | 3.3  |
| 7 ISHARES JPM USD EM BOND UCITS ETF        | 投資信託受益証券 | 米ドル       | アイルランド  | 3.0  |
| 8 ISHARES IBOXX INX GRA CORPORATE BOND ETF | 投資信託受益証券 | 米ドル       | アメリカ    | 2.8  |
| 9 SISF EMERGING MARKETS DBT A R-1 AC       | 投資証券     | 米ドル       | ルクセンブルグ | 2.8  |
| 10 AUSTRALIA 5.5% 21/04/23                 | 国債証券     | オーストラリアドル | オーストラリア | 2.7  |
| 組入銘柄数                                      | 26銘柄     |           |         |      |

【派生商品上位10銘柄】

(2019年4月15日現在)

| 銘柄名               | 業種/種別等   | 通貨  | 国(地域) | 比率   |
|-------------------|----------|-----|-------|------|
| 1 UST-N 10Y F     | 債券先物(買建) | 米ドル | アメリカ  | 8.7% |
| 2 SP500 MINI F    | 株式先物(買建) | 米ドル | アメリカ  | 7.1  |
| 3 EUR BUND F      | 債券先物(売建) | ユーロ | ドイツ   | 5.0  |
| 4 BTP10YR F       | 債券先物(買建) | ユーロ | イタリア  | 3.3  |
| 5 USULTRA BD F    | 債券先物(売建) | 米ドル | アメリカ  | 2.9  |
| 6 T O P I X       | 株式先物(買建) | 円   | 日本    | 2.6  |
| 7 IM MSCI EMG F   | 株式先物(買建) | 米ドル | アメリカ  | 2.4  |
| 8 EURO STX50 F    | 株式先物(買建) | ユーロ | ユーロ   | 1.5  |
| 9 XAE ENERGY F    | 株式先物(買建) | 米ドル | アメリカ  | 1.2  |
| 10 IM MSCI BRAZIL | 株式先物(売建) | 米ドル | アメリカ  | 0.9  |
| 組入銘柄数             | 11銘柄     |     |       |      |

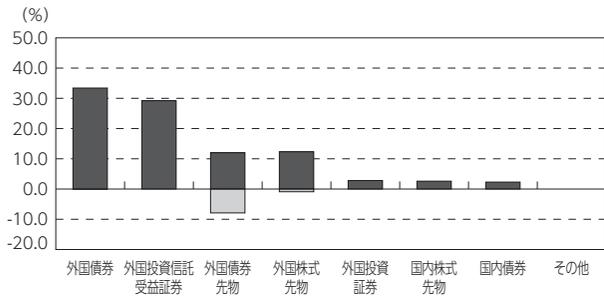
- (注) 比率は、純資産総額に対する割合です。  
 (注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。  
 (注) 国(地域)につきましては発行国(地域)もしくは投資国(地域)を表示しております。

【先渡取引残高】

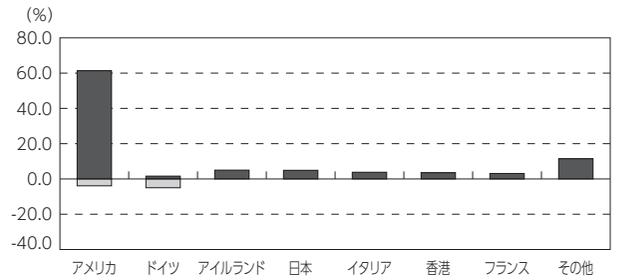
(2019年4月15日現在)

| 種類       | 取引契約残高     |
|----------|------------|
|          | 当期末想定元本額   |
| 直物為替先渡取引 | 百万円<br>252 |

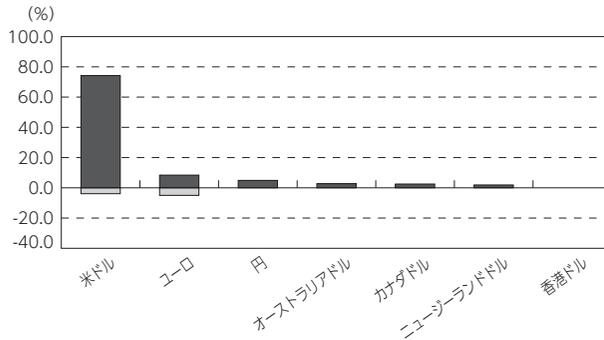
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国（地域）もしくは投資国（地域）を表示しております。

(注) 売建はマイナスで表示しております。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照ください。

## 〈代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について〉

### ○東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

### ○MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

### ○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

### ○NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

### ○FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

### ○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースィファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースィファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースィファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

MSCIは、本資料に含まれるいかなるMSCIのデータについても、明示的・黙示的に保証せず、またいかなる責任も負いません。MSCIのデータを、他の指数やいかなる有価証券、金融商品の根拠として使用する、あるいは再配布することは禁じられています。本資料はMSCIにより作成、審査、承認されたものではありません。いかなるMSCIのデータも、投資助言や投資に関する意思決定を行うこと（又は行わないこと）の推奨の根拠として提供されるものではなく、また、そのようなものとして依拠されるべきものでもありません。